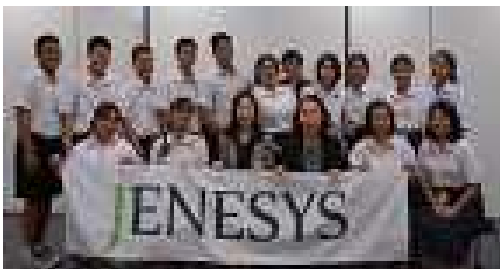
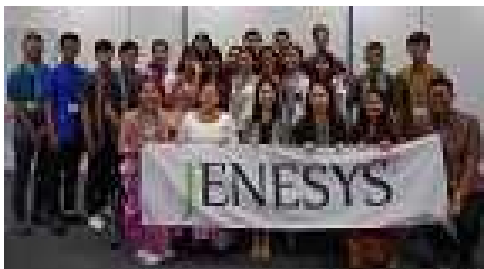
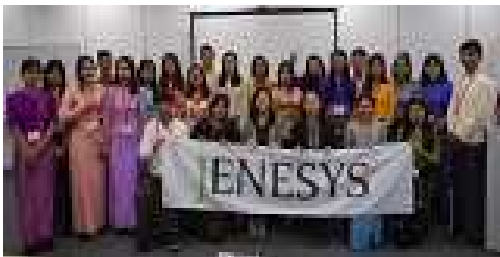


1月28日(月) カンボジア:【表敬訪問】石川県小松市長
 地方都市から東京都へ移動
 タイ・ミャンマー:【視察】お台場、【成果報告会】
 1月29日(火) タイ:【文化視察】秋葉原、帰国

3. プログラム記録写真

【カンボジア・タイ・ミャンマー】(訪問地:東京)

	
1月23日【テーマ関連の視察】 深川江戸資料館	1月23日【テーマ関連の視察】浅草寺
	
1月23日【日本理解講義の聴講】 (カンボジア)	1月23日【日本理解講義の聴講】 (タイ・ミャンマー)
  	
1月28日【成果報告会】	

【カンボジア】（訪問地：石川県）

	
1月24日 【文化視察】金沢城、兼六園	1月25日 【学校交流】公立小松大学
	
1月25日 【学校交流】公立小松大学	1月25日 【文化体験】 加賀伝統工芸村 ゆのくにの森
	
1月27日 【地域住民・関係者との歓送会】	1月28日 【表敬訪問】小松市長

【タイ】（訪問地：北海道）

	
1月24日 【文化体験】瑞龍寺、座禅、茶礼	



1月25日【学校交流】市立札幌開成中等教育学校



1月25日【文化視察】北海道博物館

1月27日【地域住民・関係者との歓送会】

ミャンマー（訪問地：東京・山形県）



1月24日【文化視察】上杉神社

1月24日【地域概要の聴講】米沢市



1月25日【文化体験】

甲子大黒天本山 腕念珠作り

1月25日【学校交流】山形大学工学部

	
1月26日【ホームステイ】	1月27日【地域住民・関係者との歓送会】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ カンボジア大学生

初めて日本に来て、実際に目にしたことは、全て予想もしなかったことでした。来日する前に日本人はみんな忙しく、カンボジアと同様に路上には人があふれていると思っていました。しかし、屋外には人々が少なく、地下や電車には人がたくさんいました。さらに日本の文化は非常に優れていました。食べる時もそれぞれ勝手に食べ始めるのではなく、食べる前と食べた後も挨拶をするマナーがあることを知りました。またレストランやホテルでは素晴らしいおもてなしがあり、みんなが親切に対応してくれました。ホームステイでは、ホストファミリーが親切で、心優しく、私に日本の文化、習慣、生活などをいろいろと教えてくれました。日本でのこの交流は、忘れることのできない体験です。

◆ カンボジア大学生

今回の経験を通じて日本のことをより詳しく理解することができ、また今までなかった新しい知識を得たり、先端技術に接することができて非常にうれしかったです。この交流を通じて日本の生活様式や何百年も古い文化を守っていること、いたるところで高層ビルがそびえていることに驚きました。気候に関しては 0℃ぐらいまで下がっており、雪も降っていて、これは新しい体験でした。またホームステイで日本人の生活や食文化も体験することができ、忘れることができません。日本の家族は、いろいろなことを教えたり、観光地を案内したりしてくれたので、日本の習慣にも興味を持ちました。日本の皆さんとの友好関係を深めることができました。

◆ タイ高校生

土田教授の日本理解講義は、現在の日本の社会に関するとても有益な知識を多く得ることができました。現在の日本も多くの問題に直面していることも知りました。たとえば高齢化社会による労働力不足の問題があり、日本での仕事に興味のある外国からの人材を受け入れて働いてもらわねばならないなどです。また、日本は自然災害も多いので、災害の被害をなくしたり、減らしたりするため最新技術が必要です。そのために最新の防災技術の開発を重要視しています。中高一貫の学校である札幌開成高校は、化学の授業で多くの実験が取り入れられていました。また学校の施設や教材もすばらしく整備されており、授業時間も多すぎず少なすぎずの配分で、生徒たちが授業に飽きずに楽しく勉強できるような工夫がされていました。日本の学校ではどのように生徒たちの関心を喚起させて様々な事を学ぶ意欲を高めているのかということ、機会があればタイでも

応用できるよう伝えていきたいと思います。

◆ タイ高校生

瑞龍寺での座禅体験では、日本の僧侶とタイの僧侶の違いについての知識を得ることができました。また座禅体験は、自分の呼吸をコントロールしながら、その呼吸にだけ集中することで雑念をなくし自分自身を瞑想に導くものであることもわかりました。座禅の後にはお茶をいただき、ご住職にタイの僧侶と日本の僧侶の違いについてお話を聞きました。日本の僧侶は家族を持つことができ、自分の子どもに寺の住職を継がせることができることや、また僧侶として出家していても教師などの他の職業にもつくことができることなど、タイとの違いもわかりました。札幌開成高校はとてもすばらしい学校でした。このような学校はまだタイでは見たことがありません。生徒たちもよく勉強ができ、とても親切で、先生の教え方も上手でした。生徒たちは皆小さな布を持っていて、昼食の時にそれを机の上に引いて食べます。とてもあたたかい感じがして、こんな経験は初めてでした。ホームステイでは、おばあちゃんが毎日作ってくれた朝食がとてもおいしかったです。朝、家の前の通路の雪かきをしたことは、タイでは雪がないのでとてもうれしかったです。折り紙をしたり、美しい着物を着せていただきありがとうございました。

◆ ミャンマー大学生

江戸東京博物館では江戸時代から、少しずつ変化していく生活様式について2つに分けて展示してありました。歴史を大切にしていることについて尊敬しました。ホームステイに行く前は心配しましたが、ホームステイの家族が親切に迎え入れてくれたのでうれしかったです。ホームステイの家族が将来、私たちが日本で働くときも米沢市を自分の故郷と思って、お父さん、お母さんのように面倒みると言ってくれたので、とてもうれしかったです。外はとても寒かったけれど、雪遊びをしたことはとても楽しかったです。

◆ ミャンマー社会人

私の心に残っていたのは 山形県米沢市の本屋さんに入ったときです。みんな静かに欲しい本を探していたり、清潔に本を整列していたり、若者から大人まで本をたくさん読んでいるのを見かけました。日本が発展したのは本をたくさん読んだからだと思います。日本人は客観的な考え方と、相手に譲る気持ちや相手のことを考える気持ちを持っていると感じました。トイレを見るだけで、使う人の気持ちを考えてとても使いやすくしていると感じました。雪で困ったこともありますが、雪になる前の水はきれいで豊富にあるとポジティブに考えている人々だと感じました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 学生（小松大学）

カンボジアの大学生との交流はとても貴重な経験でした。プレゼンテーションを発表する際には、カンボジアがいま抱える問題について考える、良い機会となりました。カンボジアの学生が考える解決策を聞く中で、日本を手本としているという話が印象に残っています。日本を一つの基準のように考えていることは素直に嬉しく感じるとともに、日本が抱える問題もカンボジアの大学生に知ってもらいたいと思いました。

休憩時間や昼食の時間は、両国の文化や言語の話で盛り上がりました。英語の話すスキ

ルが日本の学生よりも高く、驚きました。カンボジアではスピーキングの授業が必ず設けられていると知り、自分も英語の勉強を今以上に頑張ろうと感じました。同じ大学生ということもあり、互いに打ち解けた雰囲気では話ができて、とても楽しい時間でした。

◆ **ホストファミリー**（石川県小松市）

カンボジアの学生は、一緒に買い物をして、母国の料理を作ってくれたり、食後にダンスを教えてくれたり、我が家はとても盛り上がりました。心優しく気遣いのできる素敵な彼女達とのあつという間の楽しい2泊3日でした。次は、私たち親と娘で、カンボジアでの再会を約束しました。

◆ **学生**（札幌開成中等教育学校）

タイの学生が日本語を積極的に学ぼうとする姿勢に感動しました。私も第2言語としての英語を学ぶことを頑張ろうと思いました。また、タイの話をたくさん聞くことが出来て、海外により興味を持ちました。

◆ **ホストファミリー**（山形県米沢市）

学生達との交流が言葉の壁もなく、楽しく過ごすことができ、大変良かったです。私たちよりも日本の事をよく知っていることにも驚きました。先日NHKテレビでミャンマーの様子を放映していたのを録画しておき、それを見ながら会話をし、いろんなミャンマーの情報を知ることが出来ました。

◆ **学生**（山形大学）

対面時、ミャンマーの学生の方から日本語で自己紹介をしてくれたので驚きました。彼らは皆、日本語が堪能だったので、まるで日本の友達と話しているかのようでした。雪ぼんぼり作りでは、彼らは普段は見る事が出来ない雪を見て子どものようにはしゃいでおり、私も一緒に楽しく遊ぶことが出来ました。言葉はたくさん交わさなくても、雪遊びを通じてミャンマーの学生たちと親睦を深めることが出来ました。日本が好きなミャンマーの学生と関わることで、海外に日本を好きでいてくれる人たちがいることにとっても嬉しさを感じました。同時に、そんな日本にいる自分を誇らしくも思いました。グローバル化が進んでいるとはいえ、山形県のような地方ではまだまだ海外の人と関わる事が出来る機会はそんなに多くはありません。今回出来たミャンマーの学生たちとの縁を大切にしていきたいと思います。

◆ **学生**（山形県立米沢女子短期大学）

今回の交流会を通して、日本にしながらミャンマーの文化を知り、触れることができたこと、ミャンマーの学生にとっての「日本での活動」の機会に立ち会えたことは、私にとって貴重な経験となりました。ミャンマーの学生は日本語が流暢でとても驚きました。その分会話の幅が広まり、個人的に興味のあった「ミャンマーの学校制度」について知ることができました。交流会の中で一番楽しめたのは、ミャンマーの踊りを一緒に踊ったことです。音楽や踊りは文化を超えた交流の懸け橋になることを実感しました。

◆ **地域の協力団体**（山形県米沢市）

ミャンマーの学生がやる気にあふれており、大変好感がもてました。学生たちのキラキラした瞳、興味深そうに聞いていただいた姿が大変嬉しく感じました。学生の皆さんは日本語が大変堪能で、受入家庭の方も今まで以上に深い交流ができたと言っていました。歓送会は交流の深さが感じられ感動的でした。気温は低かったですが、天候にも恵まれ、

ミャンマーの学生たちに綺麗な雪景色を喜んでいただき、雪は大変なものではなく、雪を活かす、雪を楽しむ地域の暮らしを学び、体験していただいたことは、彼らにとって、とても特別な経験になったのではないかと思います。

6. 参加者の対外発信

	
(カンボジア) 小松大学での学校交流で、カンボジアの人々を代表して私たちの国について発表しました。国際舞台で発表するのが夢でしたが、夢がかないました。	(カンボジア) まるで夢のようです。雪、小松市ホームステイは素敵な思い出です。
	
(タイ) 二日目、江戸東京博物館を見学しました。ここには、日本の長い歴史と文化が紹介されています。	(タイ) 3 日目、東京から北海道にきました。日本のお坊さんから座禅を学びました。動かず瞑想することが重要です。動いたらたたかれます、笑。最初は緊張したけど、だんだんと心身が気持ちよくなりました。その後、お茶をいただきました。苦かったけど、おいしかったです。

アクションプラン帰国後、日本での体験活かした活動をしよう！



ミャンマー と 日本の文化 の架け橋

ソーシャルメディアに日本語と英語で投稿します。



【ミャンマー】

- ・日本で学んだこと、見たことを、フェイスブックのグループページに投稿し、ミャンマーの友達に伝えます。
- ・日本語ができるからこそミャンマーに関心がある日本人に向けて日本とミャンマーの文化を伝えます。
- ・ミャンマーの観光名所で日本語ボランティアとして、案内します。
- ・ミャンマーにいる日本人と文化の座談会を開いて両国の人々の間で相互理解を深める機会を持ちます。